

## 国際対応委員会

委員長：玉井 郁巳(東京理科大学)

主な役割・使命	具体的な事業内容	備考
<p>【使命】 高いレベルの研究実績を有する現在のJSSXを、国際的な存在感を高める活動によって内容・規模ともにさらに充実させ、また学会員の意識の国際化を図ります。</p> <p>【背景】 様々な分野のグローバル化によって、国内のみを対象とした情報や活動のみでは不十分で、いろいろな意味での発展には国際化対応が不可欠です。 JSSXの研究活動は、内容的には既に世界の第一線レベルにあると言えます。しかし、世界における学会としての存在感はその状況にありません。既にJSSXでは、学会の国際的評価の顔となるDMPK誌やウェブサイトの充実化を行うと共に、JSSX年会における要旨集の完全英文化や英語での口頭発表セッションの導入などの改革を進めてきました。</p> <p>【今後二年間の目的】 本委員会では、海外研究者らとの積極的な交流により、まずはAsia-Pacific地域における薬物動態研究の核になることを目指します。同時に、その目的達成のためにも学会を支える学会会員の国際化の促進による学会全体の活性化を目的とします。 既に過去二年で取り組み始めた活動を含め、具体的には右の「具体的な事業内容」の活動を実行しながら、さらに委員からの提案による新しい活動を行います。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) JSSX年会時におけるAsia-Pacific地域の研究者とのJoint</li> <li>2) JSSX年会時におけるAsia-Pacific地域の研究者・学生の参加・発表の促進。</li> <li>3) 次代を担う国内若手研究者の関連国際学会への派遣の促進。</li> <li>4) ISSXのRegional MeetingであるAsian-Pacific ISSX学会への積極的支援。</li> <li>5) その他、Asia-Pacific地域における薬物動態研究の促進を目指した啓蒙活動。</li> <li>6) さらに、Asia-Pacific地域にこだわらないJSSXの国際的存在感の高揚をめざした活動。</li> </ol>	